

1. 施設の目的

子供たちの学びを支援すると同時に、まちに新しい賑わいをつくる

B 6 形蒸気機関車から広がる科学技術のものづくりのあゆみを辿り、国内外、市内外の人々が集い、交流しながら、名古屋の街の新しい魅力となって世界に発信することを目指します。

2. 展示コンセプト

LIVE！ 時を超える鉄道の旅

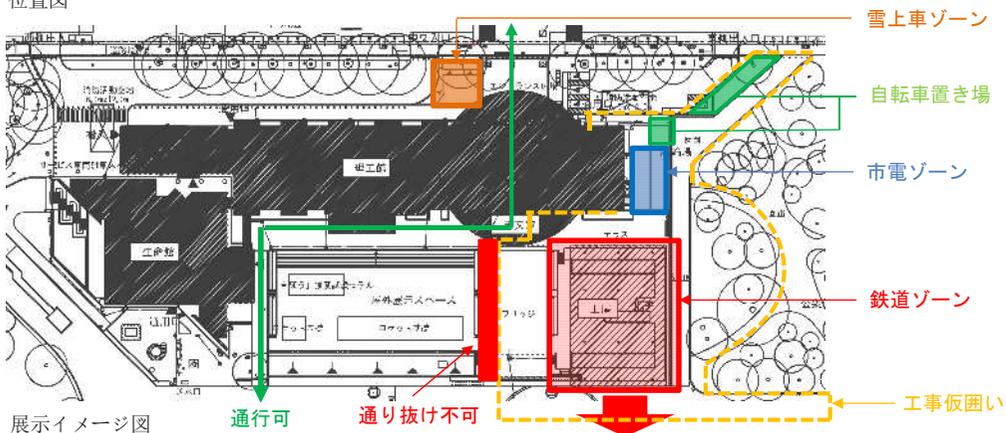
蒸気機関車が動くダイナミックな迫力にふれ、B 6 とともに時空を超えた旅を楽しみながら、科学技術の原理やものづくりの歴史をまなび、体験する

3. 整備場所・規模

整備場所：名古屋市科学館屋外展示

整備面積：鉄道ゾーン 942 m² / 市電ゾーン 60 m² / 雪上車ゾーン 61.2 m² / 自転車置き場 118 m²

位置図



展示イメージ図



オハ 352001号 客車

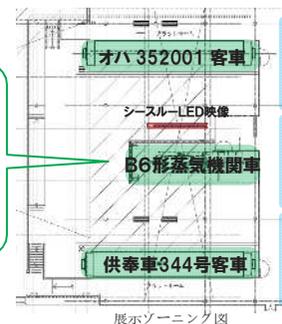
B 6 形蒸気機関車

供奉車344号 客車

4. 展示概要

B6形蒸気機関車動態展示

圧縮空気を使って車輪を動かす、ダイナミックな動態展示。煙突からスモークを出したり汽笛を鳴らしたりと、臨場感あふれる演出を行う。また、大型シースルーLED映像を使って、蒸気機関車が動くしくみを実物と重ねながら見ることができる。



産業革命と鉄道・くらしの発展

産業革命によって発展した鉄道とくらしの変化を伝えるグラフィック。

B6ギャラリー

実際にB 6 で使われていた部品を展示し、その機能と役割を紹介する。

みんなのギャラリー

定期的に表示替えができる、来館者が応募した鉄道写真を展示できるスペース。

5. 各車両の基本情報

B6形蒸気機関車

1904年にドイツのハノーファー社で製造され、日本へ輸入。1905年から鉄道作業局の所属となり、大正時代には中央線、昭和になってからは武豊線、高山線を走りました。

オハ 352001 客車

1939年に日本車両株式会社に製造され、当時は東北本線の急行列車用に使われましたが、戦後新しい客車が登場するにつれて、東北本線と支線の普通列車に使われました。

供奉車344号客車

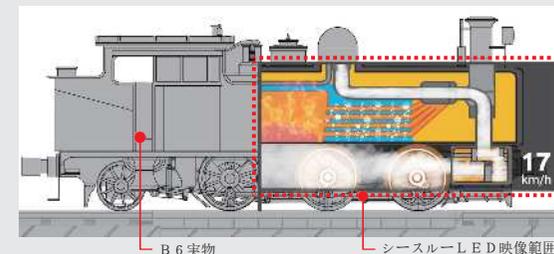
皇族が使用する特別なお召列車、また皇室に仕える人たちを乗せる皇室用客車の一種である供奉車として使われました。

6. 展示のポイント

① 大型シースルー LED ディスプレイ映像演出

B 6 の動態展示とリンクする、蒸気機関車の動くしくみを解説する映像

重厚な蒸気機関車が動く迫力を感じながら、蒸気機関車が動くしくみをB 6 実物と重ねて見ることができる、実物大の大型映像です。映像と動態展示をリンクさせることで、よりリアルな迫力を味わうことができます。



② B6 部品の実物展示ギャラリー

実際にB 6 で使われていた貴重な部品を図面とともに展示

B 6 修復時に取り出した部品の実物展示です。普段見ることのできない蒸気機関車の中身をすぐ近くで見ることができるとともに、各部品がどこでどのように機能していたのかを解説し、蒸気機関車の走るしくみをより深く理解することができます。

③ 当時の雰囲気を感じさせる空間づくり

B 6 が活躍した時代の駅舎をイメージさせる時計やベンチなどを設置

各車両の周りにはプラットフォームを模した展示路が配され、ホームに停車しているような雰囲気を演出。また、B 6 がかつて活躍した昭和中期頃の時代の駅舎を思わせるような時計やベンチ、駅名看板風のサインを配し、休憩機能を充実させるとともに当時の雰囲気を演出します。